

団体名 勝山三山を守る会（下関市）

代表者名	原田 進造	団体の目的
構成員数	72人	勝山三山（青山、勝山、四王司山）及び勝山御殿跡を活動の場として、自然の景観と歴史を守り、人々の親睦とやすらぎを育み、うるおいと活力のあるまちづくりに努める
設立	1997年(H9年)11月	
問い合わせ先	083-256-0882（原田）	

事業名 勝山三山の紙芝居作成と登山案内

- 事業の目的**
- ・ 山頂の説明看板や登山道の標識等を更新し地域の魅力を高めるとともに、登山ガイドにより登山マナーや環境保全意識の向上を図る。
 - ・ 勝山三山の歴史を紹介する紙芝居により、地域住民の郷土への愛着を深める。

- 事業の内容**
- ・ 紙芝居「勝山三山物語 四王司山と勝山御殿編」の作成
開催日：5月～10月
内容：会員の手作りで勝山三山や勝山御殿の歴史や魅力を紹介する紙芝居を作成
 - ・ 紙芝居上演
開催日：11月22日・23日 場所：勝山御殿跡 参加者：100人
内容：勝山御殿表門の模型展示に合わせて、紙芝居を初上演
 - ・ 登山道等の整備
開催日：6月～3月 場所：勝山三山の山頂及び登山道
内容：
 - ・ 登山ルートのご案内標識、案内板の作成・設置
 - ・ 山頂にある歴史の説明看板を作り直し、新たにQRコードを掲載
 - ・ 青山、勝山、四王司山ごとの登山ガイド説明書の作成

- 事業の成果**
- ・ 紙芝居により、幅広い世代に地域の歴史や魅力を伝えることができた。
 - ・ 登山ガイド説明書や説明看板の作成により、登山者も勝山三山の歴史を容易に理解できるようになり、登山の魅力を高めることができた。

活動現場レポート 勝山御殿 御殿表門の模型展示〈R2.11.22／勝山御殿跡〉

この日は、会員の皆さんがストーリーや作画を手作りされた紙芝居「勝山三山物語 四王司山と勝山御殿編」が初披露されました。

開始の合図の拍子木が鳴ると、家族連れなど地域の皆さんが集まり、原田会長の挨拶に続いて、紙芝居が上演されました。

おじいちゃんと孫の勝哉の会話でストーリーが進み、飛鳥から明治までの歴史をわかりやすく紹介されました。アドリブを交えながら上手に話されたので、最後まで楽しく見ることができました。上演後は「良かったよ」のかけ声とともに大きな拍手があり、観客の皆さんもとても楽しまれた様子でした。



上演の様子



紙芝居を楽しむ観客

団体名 宇部市地球温暖化対策ネットワーク（宇部市）

代表者名	渡邊 裕志	団体の目的
構成員数	107団体・個人87人	低炭素社会の形成を目指し、温室効果ガス削減に向け、産・官・学・民の相互理解と協力のもと、地域における地球温暖化対策を協議・実践し、環境共生都市の実現に寄与する。
設立	2002年(H14年)10月	
問い合わせ先	0836-38-8183（事務局）	

事業名 地域の活動から家庭の省エネを拡げる「自治会対抗省エネ合戦」

事業の目的 ・脱炭素社会の形成を目指して、国民運動COOL CHOICEの実現を促進する。
 ・地域コミュニティと連携し、家庭での省エネ活動を拡げ、民生部門のCO2発生量を削減する。

事業の内容 ・自治会対抗省エネ合戦
 内容：電力需要が高い7～9月に、家庭での省エネ活動に取り組み、電気使用量の削減を競う
 5月 参加チーム募集
 6月 募集締切 参加：20チーム（108家庭）
 7月 省エネ合戦スタート（9/30まで）
 ・参加チームに、メール・LINEによりガイドラインを送付
 ・「省エネチェックシート」を参考に省エネを実践
 10月 7/1～9/30の電気検針票の提出
 11月 電気消費量の集計、削減率算出、結果まとめ
 ・活動報告会
 開催日：12月20日10:00～11:30 場所：宇部市立図書館
 内容：「自治会対抗省エネ合戦」結果発表、表彰、家庭での取組内容の紹介
【表彰】 チーム部門：5団体 家庭部門：10家庭

事業の成果 ・コロナの影響により自宅で過ごす家庭が多く、思ったほどの電気使用量の削減はなかったが、省エネを実践してもらうことで市民への意識づけができた。

活動現場レポート チーム対抗「家庭省エネ合戦」報告会（R2.12.20／宇部市立図書館）

この日は、7～9月の3か月間、消費電力削減対抗戦に参加した家庭の取組報告と表彰が行われました。

溝田代表の挨拶に続き、事務局長の活動報告では、コロナの影響により家で過ごす時間が長く、エアコン等の使用時間が増えたことで、昨年度に比べ参加チーム全体の消費電力が3.7%増加したと説明がありました。

続いて、対抗戦の成績が発表され、上位の5団体と10家庭に表彰状が贈られました。

表彰後は、各家庭での消費電力削減に向けた取組内容紹介が行われましたが、何れも日頃から心がけて実践されているもので、会の活動を通じて、家庭での取組がさらに普及・拡大していくことが期待されるものでした。



表彰



記念撮影

団体名 ひかりエコメイト（光市）

代表者名	藪 博昭	団体の目的
構成員数	13人	自然環境の保護・再生及び環境関連の事業を行い、その活動を通じて、地域社会に貢献する。
設立	2003年(H15年)4月	
問い合わせ先	0833-72-5058（藪）	

事業名 島田川と海を結ぶ～身近なSDGs 13・14活動～

事業の目的 ・上流と下流の交流・つながりを深化し、川ごみと海ごみの回収を通じて、森・川・里・海の連携の大切さを学ぶ環境学習体験を行う。

事業の内容

- ・ひかりエコ自然塾2020
開催日：8月23日 15:00～17:30 場所：虹ヶ浜海岸 参加者：40人
内容：海岸清掃、海辺の生物の観察、プラスチックごみ問題の学習
- ・島田川河口の豊かな自然を楽しもう（環境学習会）
開催日：10月18日 13:00～15:00 内容：島田川の生き物、植物などの紹介
- ・島田川河口の清掃
開催日：3月6日 10:00～12:00 場所：虹ヶ浜海岸 参加者：約50人
内容：砂浜に繁茂しているクズ・野バラ等の撤去、プラスチックのゴミ拾い
- ・周東町生涯学習まつりに出展
開催日：3月10日～13日 場所：岩国市パストラルホール
内容：活動を紹介したパネルを展示、チラシ配布

事業の成果

- ・ひかりエコ自然塾により、近年問題となっているプラスチックごみの削減の大切さを啓発することができた。
- ・島田川での環境学習では、川の現状を理解していただき、自然への敬意を深めてもらうことができた。

活動現場レポート ひかりエコ自然塾2020～自然豊かな虹ヶ浜海岸で環境学習〈R2.8.23／虹ヶ浜海岸〉

藪会長の挨拶とスケジュール確認の後に、漂着ごみを拾いながら、集合場所から虹ヶ浜海岸の西側まで移動しました。数百メートルの距離でしたが、多くの参加者が、ペットボトルや発泡スチロールなどのゴミを袋いっぱい回収していました。

続いて、2つのグループに分かれて「海辺の観察会」と「漂着ごみ環境学習会」が行われました。

「海辺の観察会」では、参加者が思い思いの場所で生き物を捕まえた後、一つの入れ物に入れ替えて、エビ、カニ、フグの稚魚などの生き物を観察しました。

また、「漂着ごみ環境学習会」では、砂をふるいにかけて2～5ミリほどのプラスチック片を探し、マイクロプラスチックを調べました。

親子での参加が多く、色々な発見に会話を弾ませながら、楽しそうに過ごされていました。



海岸清掃



海辺の観察会

団体名 一般社団法人やまぐちGISひろば（宇部市）

代表者名	三浦 房紀	団体の目的
構成員数	123人	GIS(地理情報システム)の技術者同士の情報交換、関連機関や研究団体との連携を通して、GISに関わる技術の向上や普及を図るとともに、地域創生の一翼を担う技術として活用することを推進する。
設立	2017年(H29年)6月	
問い合わせ先	0836-45-3042 (弘中)	

事業名 地域の防災活動を支援する防災GIS（地理情報システム）構築事業

事業の目的 ・防災図上訓練で取得する地域の危険箇所情報を大判地図(紙)ではなくGISに電子記録することにより、地域自らにより、GISを活用した地区ハザードマップ等の地域防災計画立案が行えるような仕組みづくりを進める。

事業の内容 ・防災ワークショップ
 開催日：10月17日 9:00～15:00 場所：大道中学校
 参加者：39人
 内容：・過去の災害事例の学習
 ・開発したGISアプリを使った危険箇所のデータ収集
 ・地区ハザードマップ作り
 ・第6回GISフォーラム（防災GIS講演会）
 開催日：2月13日 13:00～16:30 場所：山口県セミナーパーク
 参加者：76人
 内容：防災教育におけるGISの適用事例についての有識者講演会

事業の成果 ・ふるさと学習の一環として、中学校で防災教育を行ったことにより、防災士、学校、地域住民が一体となった地域防災活動が実施できた。
 ・地域の産官学民でコラボレーションすることができた。

活動現場レポート 防災ワークショップ2020〈R2.10.7/大道中学校周辺〉

今回は、昨年までの山陽小野田市での取組から、防府市に場所を変えて、中学校との連携を新たに加えて実施されました。

午前中は、中学生も参加し、大道中学校から4コースに分かれてまち歩きしながら、地元の防災士の案内で、危険箇所の確認とタブレットへのデータ入力を行いました。各地点で防災士や地元の方から過去に発生した災害の説明がありました。

午後のワークショップでは、示されたマニュアルをもとに、収集した情報をパソコンでGISに反映させて災害危険箇所のマップを作成し、午前中のまち歩きの成果を、班ごとにマップを使って発表しました。

1日の行事で、高低差のある体力が必要な行程でしたが、参加者全員が、真剣にまち歩きやワークショップに取り組まれていました。



危険箇所の確認



グループワーク

団体名 特定非営利活動法人ぼうぼうネット（防府市）

代表者名	山本 一夫	団体の目的 行政と住民、教育機関が協働しながら、持続可能な防災活動や地域力の創出を支援し、災害に強い地域づくり、地域安全のまちづくりに寄与する。
構成員数	20人	
設立	2009年(H21年)11月	
問い合わせ先	090-2808-0113（山崎）	

事業名 水災害からの避難が困難な高齢者・乳幼児の命を守るための救護技術を身に着ける人材育成に関する検討会と教育・訓練カリキュラム案の作成

事業の目的 ・自治会・自主防災組織が主体となって、災害時に「助けること」ができる技能をもった人材を養成し、避難が困難な高齢者や障害者を助けるための実践的な仕組みづくりを進める。

事業の内容 ・水災害から避難が困難な高齢者・障害者・乳児の命を守るための検討会
 開催日：8月2日 場所：防府市地域職業訓練センター 参加者：15人
 内容：講演①「想定し得る降雨に備える」
 講師：廣川昭典さん（県柳井土木建築事務所次長）
 講演②「避難が困難な高齢者の命を守るための地域防災活動の取組」
 講師：山崎隆弘さん（NPO 法人ぼうぼうネット事務局長）
 ワークショップ：避難困難者をどのように避難させるか等の検討
 ・避難救護支援員養成コーチング技術習得講座
 開催日：12月20日 場所：防府市地域職業訓練センター 参加者：30人
 内容：・疾患等の基本知識、介護法についての講義
 ・高齢者や障害者の介助技術についての実習

事業の成果 ・自力での避難が困難な高齢者等を助ける仕組みづくりとして、理学療法士の「介助」の技能を生かした「避難救護支援員」の必要性を再認識し、その養成に向けた取組を進めることができた。

活動現場レポート

避難救護支援員養成コーチング技術習得講座

〈R2.12.20／防府市地域職業訓練センター〉

避難が困難な高齢者や障害者の命を助けるために、（一社）山口県理学療法士会との共催で、理学療法士から介助の技術を学ぶ講座を開催されました。午前は講義、午後は実習というプログラムで、午前の講義を訪問しました。

冒頭に両主催者の代表が挨拶をされた後、講義では、初めに、理学療法士の大谷さんが、脳卒中や聴覚障害、認知症について説明されました。

次に、理学療法士の丸谷さんが、介助の基本動作や注意点等について、1人で介助を行う場合、複数人で介助を行う場合、介助者に麻痺がある場合など、様々な場面を想定して、実演しながら説明されました。

続いて、参加者が介助に挑戦されましたが、皆さんアドバイスを受けながら真剣に取り組まれていました。



大谷さんの講義



丸谷さんの講義

団体名 下松市防災士会（下松市）

代表者名	今治 正明	団体の目的
構成員数	10人	自助、共助の考えのもと、防災士相互及び他の防災関連団体との連携を図ることにより、自主防災意識の向上と安心・安全のまちづくりに寄与する。
設立	2018年(H30)年5月	
問い合わせ先	090-1684-4951（浅本）	

事業名 市民による防災・備災活動事業（私たちの地域を学び私たちの地域の防災に活かす）

事業の目的 ・大災害が発生したときに、地域住民が自主的に、関係する市民団体と連携して、円滑に避難所の開設及び運営ができるよう、自助・共助を目的とした避難所の開設・運営ゲームを実践する。

事業の内容 ・防災講座「避難所の運営を学ぼう！」

区分	第1回目	第2回目
開催日	10月3日 14:15～15:45	3月20日 10:00～11:30
場所	下松市駅南市民交流センター	旗岡第1集会所
参加者	15人	50人
内容	・3～4人のチームに分かれて、ESG（避難シミュレーションゲーム）により避難所の開設・運営方法を学び、結果を発表する	

事業の成果 ・旗岡第一集会所では、新設の避難所で地域の子どもや高齢者が参加して講座を受けたことで、避難所運営の認識が共有でき、防災意識の高揚に繋がった。
 ・ESGの使い勝手を参加者にフィードバックしてもらい、改良点等を確認することができた。

活動現場写真



話し合いながら避難所を作り上げる様子



結果発表

団体名 やない平和を語る会（柳井市）

代表者名	久保 優子	団体の目的
構成員数	15人	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争体験者に、貴重な戦争体験を語っていただき、平和への気持ちを未来に繋げていく。 ・高齢化された戦争体験者の語りの手伝いと、貴重な体験を記録に残し、子どもたちの平和学習に活用する。
設立	2016年(H28年)4月	
問い合わせ先	090-1608-2753（久保）	

事業名 平和への願いを引き継いでいく事業

- 事業の目的**
- ・戦争体験を記録に残すことにより、戦争体験者が亡くなられた後も、平和への気持ちや命の大切さを学べるようにする。
 - ・平和講演会を聞くことにより、貴重な戦争体験者の語りを聴いてもらい、語り継いでいただく。

- 事業の内容**
- ・原爆の日、平和講演会
 開催日：8月6日 場所：柳井文化福祉会 参加者：30人
 内容：浅海頼子さんの被爆体験、戦後の平和活動等の講演、質疑応答
 - ・柳東小学校、平和講演会
 開催日：12月10日 場所：柳井市立柳東小学校 参加者：33人
 内容：浅海頼子さんの被爆体験、戦後の平和活動等の講演、質疑応答
 - ・記録作業
 開催日：5/20・28、6/7、7/6・15・16、9/28、10/3・16、11/22、12/20・25
 内容：町田保さんの戦争体験（学徒出陣、東京裁判の傍聴）の語りをDVDに記録し、Youtube・facebookで配信
 - ・DVDの寄贈
 内容：戦争体験の語りを収録したDVDを柳井市の小中学校、企業等に寄贈

- 事業の成果**
- ・戦争体験者の話を直に聞いてもらい、戦争を知らない子どもたちに平和の大切さを伝えることができた。
 - ・記録DVDが学校の平和学習に活用してもらえるようになったほか、広く配信することにより、海外からも「平和の大切さを実感した」と反応があった。

活動現場写真



原爆の日、平和講演会



講師の浅海頼子さん（左）

団体名 特定非営利活動法人あっと（山口市）

代表者名	藤井 智佳子	団体の目的
構成員数	10人	互いに支え合う子育てを通して、誰もががあるがままを受け入れられ、いきいきと活躍することができる地域社会を作ることを目指し、子育てから始めるコミュニティを創造していく。
設立	2006年(H18年)3月	
問い合わせ先	083-921-0428（藤井）	

事業名 子育てと仕事の両立をサポートするライフワークコンシェルジュ養成講座

事業の目的 ・子育てにマイクロレベルで寄り添えサポートができる支援者を養成し、子育て中の女性でも、チャレンジや活躍ができ、安心して子育てができるサポート体制を構築する。

事業の内容 ・ライフワークコンシェルジュ養成講座
 開催日：6月17日・18日 場所：小郡地域交流センター 参加者：14人
 内容：①子育て中の女性のキャリア支援、②仕事と家庭の両立支援、③子育て中の女性の活躍支援について、講義とワークショップで学ぶ講座
 講師：①田中 彩さん（WorkStep 株式会社代表）
 ②林田あゆみさん（株式会社YMFG ZONE プランニングマネージャー）
 ③藤井智佳子さん（NPO法人あっと代表理事）

・ライフワークコンシェルジュの実践
 開催日：9月～3月
 内容：上記養成講座の受講者が、子育てしながら社会復帰を目指す女性43人に伴走支援（リアルやオンラインでの面談、メール対応で実施）

事業の成果 ・講座を受講した14人をライフワークコンシェルジュとして認定し、子育てをしながら社会復帰を目指す女性に対し、伴奏支援活動を行うことができた。

活動現場レポート

ライフワークコンシェルジュ養成講座 ライフ支援編

〈R2.6.18／小郡地域交流センター〉

2日間の講座のうち、株式会社YMFG ZONEプランニングマネージャーの林田あゆみさんと、NPO法人あっと代表理事の藤井智佳子さんによる講座とワークショップが行われる「ライフ支援編」を訪問しました。

林田さんは、日本の女性活躍推進の変遷や現状を解説しながら、仕事と家庭を両立させるためにコンシェルジュとしてどのようにアドバイスするかを中心にお話されました。

藤井さんは、子育て中の女性が働くことの重要性とその支援体制づくりについてのお話で、子育ての経験はアドバンテージとなると力強く説明されました。

参加者・主催者とも真剣に取り組まれており、講座の内容も、参加者にコンシェルジュとして今後活躍したい、支援したいと思わせるものとなっていました。



藤井さんの講義



意見交換する参加者

団体名 認定特定非営利活動法人こどもステーション山口（山口市）

代表者名	山本 有希	団体の目的
構成員数	418人	子どもたちが芸術文化に親しみ、社会経験や社会参加の機会を広げ、豊かな子ども時代が過ごせる環境づくりを進め、健全な成長に寄与する。
設立	2001年(H13)年2月	
問い合わせ先	083-925-1486（福山）	

事業名 子どもの遊びをゆたかなものに~つくろう あそぼう プレパーク~

- 事業の目的**
- ・講演会により、プレパークの意義や必要性を多くの人に理解してもらい、立ち上げの機運を高める。
 - ・「いちにちプレパーク」の開催により、子どもに楽しさを体験させ、市民に周知・認知してもらう機会とする。

- 事業の内容**
- ・萩わんぱーくの実践に学ぶ会
開催日：4月11日 場所：さぼらんて 参加者：10人
内容：萩わんぱーくの成り立ちや運営について学ぶ
講師：白上由紀江さん（萩わんぱーく事務局長）
 - ・いちにちプレパーク
開催日：6/20、8/22、9/26、10/3、11/21、12/19、2/23（全7回）
参加者：延べ1,173人
場所：糸米川砂防園、赤田神社境内、山口県農業試験場
内容：ロープ遊び、竹細工、こま回し、草花染、たき火、段ボール遊び等
 - ・講演会「あそぼう つくろう プレパーク」
開催日：11月3日 場所：山口県旧県会議事堂 参加者：46人
内容：第1部 13:00~14:30「遊びで育つ子どもの生きる力」
第2部 14:45~16:00「遊び場づくりでまちが変わる」
講師：関戸博樹さん（日本冒険遊び場づくり協会代表）

- 事業の成果**
- ・いちにちプレパークに多くの参加があり、ニーズの高さを再認識するとともに、プレーリーダーのスキルアップに繋げることができた。
 - ・講演会により、参加者に活動への理解を広げ、賛同を得ることができた。

活動現場レポート 第5回いちにちプレパーク（R2.8.22／糸米川砂防園）

当団体は、子どもを見守りながら、子どもに任せて自主性を育てるプレパークの実現に取り組まれており、この日は、市民に体験してもらう場として「いちにちプレパーク」を開催されました。

コマ廻し、草木染め、水鉄砲などが用意され、子どもたちが水辺などで思い思いに遊ぶというものでしたが、水辺では常にスタッフが監視し水分補給などにも注意するなど、安全確保に十分配慮されていました。会場は、子どもたちが土を好きなように掘り返しても支障のない公園を選んでいるとのことでした。



水辺での泥あそび

団体名 一般社団法人Happy Education (山口市)

代表者名	村上 忍	団体の目的
構成員数	30人	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの新しい学び環境の構築を目指す。 不登校について正しい認識を地域社会に広め、子ども達の可能性を潰さない社会を構築する。
設立	2018年(H30)年1月	
問い合わせ先	090-4579-1368 (村上)	

事業名 多様な学び環境啓発のための講演会

事業の目的 ・不登校という社会課題の解決と子どもたちにとってよりよい学び環境づくりを目指す。

事業の内容

- 多様な学び環境啓発講演会 (第1弾)
開催日：11月8日 13:00~16:00 場所：オンライン (Zoom)
参加者：42人
内容：中邑賢龍さん (東京大学先端科学技術研究センター教授) の講演
- 多様な学び環境啓発講演会 (第2弾)
開催日：11月15日 13:00~16:00 場所：山口県立図書館
参加者：8人
内容：川崎知子さん (イエナラボ代表) の講演とイエナプラン方式の学び体験
- 相談会・勉強会
開催日：1月30日、2月21日、3月26日
場所：山口市市民活動支援センター及びオンライン (Zoom)
参加者：延べ11人
内容：学校が苦手な子どもの保護者を対象とした相談会、講演会の録画データと資料を活用した勉強会

事業の成果

- 専門家の講演会により、学校以外にも子どもが学び成長することができる環境づくりの重要性を伝えることができた。
- 学校が苦手な子どもの保護者に、学校以外の学び環境について知ってもらい、子どもの可能性を肯定的に捉えるきっかけを与えることができた。
- オンラインで開催したことで県外からの参加もあり、活動を広く周知できた。

活動現場写真


多様な学び環境啓発講演会 (第1弾)



相談会・勉強会

団体名 チャイルドライン岩国ステーション（岩国市）		
代表者名	村中 昌恵	団体の目的
構成員数	37人	18歳までの子どもたちからの電話相談などの事業を行い、子どもの状況を社会に発信するとともに、「子どもの権利条約」の啓発、子どもが豊かに育つ環境づくりに寄与する。
設立	2007年(H19年)6月	
問い合わせ先	080-1636-1135（村中）	

事業名 チャイルドライン公開講座・受け手継続研修・支え手研修

- 事業の目的**
- ・市民にチャイルドラインを知ってもらい、子どもの声に耳を傾け寄り添える大人を増やし、子どもの生きづらさが緩和され安心して暮らせる社会の実現を目指す。
 - ・子どもたちの声に耳を傾け、子どもたちに信頼され、子どもたちの心の居場所になれるチャイルドラインの受け手・支え手を養成する。

- 事業の内容**
- ・チャイルドライン受け手継続研修
 - 開催日： 6月21日 講師：堀江秀紀さん「子どもの現状と発達」
 - 10月17日 講師：山口 修さん「子どもの権利」
 - 10月25日 講師：石井由紀さん「子ども時代にたちかえる」
 - 12月19日 講師：石井由紀さん「子どもたちの心に寄りそう」
 - 3月 7日 講師：石井由紀さん「聴くということ」
 - 場所：岩国市中央公民館 参加者：30人
 - 内容：子どもたちの話を聞き、寄り添い、子どもたちに信頼される受け手となるスタッフの研修
 - ・チャイルドライン支え手研修
 - 開催日：12月5日 場所：団体事務所 参加者：5人
 - 内容：石井由紀さんを講師に、受け手スタッフのサポート方法を学ぶ研修
 - ・チャイルドライン公開講座
 - 開催日：2月28日 場所：岩国市福祉会館及び Zoom 参加者：35人
 - 内容：木村素子さんオンライン講演会
演題「すべての子どもに居場所を-子どもに寄り添う大人がいる地域を作る-」

事業の成果

- ・継続して研修を受講することにより、チャイルドラインの受け手として、より子どもたちの声に耳を傾けることができるようになった。
- ・オンラインによる公開講座は初めての試みだったが、県外からの参加もあり、今後の可能性の広がりを感じることができた。

チャイルドライン岩国ステーション公開講座 きらめき財団助成金事業
すべての子どもに居場所を
「みんなの学校」木村素子さん講演会
～子どもに寄り添う大人がいる地域をつくる～
2021年2月28日(日)
13:00～15:00

●会場 岩国市福祉会館(岩国市福地町丁1-1)
●参加費 前売り券1,500円(当日券2,000円)
●託児あり 1人300円
●申込先 福祉会館心。申し込み受付2/20

全国で上代会が機り選され平成25年度文化庁芸術祭
大賞他6つの賞を受賞したドキュメンタリー映画「みんな
の学校」。こんな学校をみんなが作る事ができる
なんて、いい学校と感動の瞬間が今も今も全
国で自主上映会が広がっています。

【対象者さんプロフィール】
映画の制作から5年3月で東京市立大の学校の制作授業を始めた。大田小学校は「すべての
子どもの居場所をつくる」という理念のもと、教職員や地域の大人たちと協力し、伊勢の海側と大田から
すべての子どもがいきいきと暮らしている。11年には東京小の校舎を壊ったフェリス学院一休
みんなの学校」が公開され、大きな反響を呼んだ。この映画に次ぐ映画の制作にも関わって、似た
ような学校を全国に広げたいと決意されている。

【講演】
「みんなの学校」が描き出したこと
「みんなの学校」で、子どもが育つ方法
「みんなの学校」から学ぶこと

【講師】
木村素子さん
19歳までの子どもが居る
子どもを育てる
（明石 愛 2177）

子どもたちへの「会席」
○子どもはみんな
○どんなことでもいっしょに考える
○話を聞かなくていい
○おしゃべりしていい、聞いていい

主催：福祉会館心
チャイルドライン岩国ステーション (080-1636-1135)
〒74-0002 岩国市百町1番10-1 福祉会館心
TEL:082-921-8131 FAX:082-921-8132

共催：福祉会館心
チャイルドライン岩国ステーション (080-1636-1135)
〒74-0002 岩国市百町1番10-1 福祉会館心
TEL:082-921-8131 FAX:082-921-8132

協賛：岩国市福祉会館心 (082-921-1485) ※今後の状況に応じて詳細を中止・変更する
※会場：福祉会館心

木村素子さん講演会

団体名 夢・すこやか☆老いも若きも子ども食堂（柳井市）

代表者名	岡山 幸子	団体の目的
構成員数	38人	元気な柳井地域をつくるため、幅広く地域づくりや生活支援事業（子ども食堂等）を行い、地域住民の安心・安全に資する。
設立	2013年(H25年)3月	
問い合わせ先	090-7543-7778（岡山）	

事業名 子ども達の明るい未来のために、私たちが今できること

事業の目的

- ・すこやかに未来へ向かう子ども達を地域で育てる。
- ・コロナの影響を受け、厳しい状況となっている家庭の子ども達に、学びと食をサポートする。

事業の内容

- ・子ども食堂
 開催日：6月21日 西本敏昭さんによる筆文字教室
 7月19日 田布施農工高等学校生徒によるピザ教室
 8月2日 田布施農工高等学校生徒の手作り弁当プレゼント
 8月31日 高校生を対象とした着付け教室
 場 所：夢・すこやかサロン
- ・未来お抹茶教室
 開催日：4/21、5/5・17、6/6・13、7/7・25、8/8・10・22、9/12・13・28、10/10・12（全15回）
 場 所：夢・すこやかサロン、柳井中央公民館等
 内 容：高校生を対象とした茶道教室
- ・ブルーベリー手つみ収穫祭
 開催日：6月28日、7月28日 場 所：夢・すこやかサロン
 内 容：ブルーベリーの収穫体験と交流会
- ・アオハル・パントリー
 開催日：①9月9日 ②1月19日 ③2月3日
 場 所：①田布施農工高等学校 ②熊毛南高等学校 ③柳井高等学校
 内 容：コロナ禍に負けずに頑張る高校生にパンと飲み物の無料配布

事業の成果

- ・コロナ禍でも子ども食堂を継続したことで、ひとり親家庭で忙しい母親をサポートすることができたほか、他団体や教育機関等とのネットワークが広がった。

活動現場レポート 子ども食堂&お手軽ピザづくり体験（R2.7.19/夢・すこやかサロン）

この日は、食堂での弁当配布の前に、田布施農工高校の生徒の協力で「お手軽ピザづくり体験」が行われました。準備から運営のほとんどを生徒が担当し、当日は朝4時から準備されたとのことでした。

ピザづくり体験には、親子連れ30人が参加されました。レシピも生徒の手作りで、小さな子どもが遊びながら楽しく調理できるよう工夫されており、家族で協力しながらピザ作りに挑戦されていました。

この後、屋外で、生徒による手作り弁当30個が配布され、多くの親子連れが受け取っておられました。会員の皆さんも声をかけながら配布されていました。



ピザづくり体験



配布されたお弁当

団体名 山口県で活動するジュニアアスリートをサポートする会（周南市）

代表者名	渡辺 裕子	団体の目的
構成員数	9人	子どもの健やかな成長を促す食生活や健康増進に寄与するとともに、地域全体で子どものスポーツ活動を応援・支援する。
設立	2015年(H27)年3月	
問い合わせ先	090-1187-7263（渡辺）	

事業名 海から学ぶスポーツとサイエンスのキッズスクール事業

- 事業の目的**
- 子どもたちが海に親しむ環境の場を設けるとともに、海を通して子どもたちの自然科学への好奇心や探求心を高める。
 - 海洋イベントでの子どもたちの安全確保に向けて、安全講習会を実施する。

- 事業の内容**
- 海洋イベントにおける海の安全講習会
 開催日：7月8日 18:00～19:30
 場所：新南陽ふれあいセンター
 参加者：20人
 （対象）市民活動・子育て支援メンバー、コンベンション協会職員、観光ガイド、周南市職員等
 - 内容：
 - コロナ感染症及び熱中症防止対策について
 - 海上安全について
 - 水上事故の現状
 - 事前準備（各種行事申請、救命救急体制、指揮系統など）
 - 注意点（使用海面の選定、ライフジャケットの準備など）
 - 必要なスキルや知識（気象・海象、アンカーリングなど）
 - ロープワークについて
 - 機能性
 - ロープワークの実践
 - 質疑応答

- 事業の成果**
- 安全講習会により、子どもたちの安心・安全な環境づくりを進めることができた。
 - コロナの拡大や台風により海洋スポーツ教室は開催できなかったが、準備の段階で漁協や海上保安庁、警察、消防等との連絡系統を構築することができた。

活動現場写真



安全講習会



ロープワークの実践 八の字結び

団体名 特定非営利活動法人消費者ネットやまぐち（山口市）

代表者名	藪本 知二	団体の目的
構成員数	7団体・個人117人	消費者に対して、各種消費者被害の調査、情報提供、啓発活動、消費者相談等を行い、消費者の人権擁護及び社会教育の推進に寄与する。
設立	2009年(H21)年11月	
問い合わせ先	083-902-3200（川上）	

事業名 創立10周年記念事業（記念講演会と無料法律相談フェア）

事業の目的 ・団体の活動について周知するとともに、消費者被害の状況や被害防止について啓発し、地域における見守り活動の重要性を学ぶ機会とする。

事業の内容 ・創立10周年記念事業
 開催日：3月27日 10:30～15:00 場所：山口県立図書館レクチャールーム
 内容：①創立10周年記念講演
 演題「みんなで応援！地域で子育て～未来、地域を担う子供たち～」
 講師：熊丸みつ子さん（教育専門家）
 ②消費者力アップセミナー
 第1部：演題「これからを豊かに暮らすための“終活ポイント”」
 講師：中村 久枝さん（山口県金融広報アドバイザー）
 第2部：演題「ネット通販・キャッシュレスによる最近の被害事例と対処法」
 講師：石村真奈美さん（山口県金融広報アドバイザー）
 ③弁護士無料法律相談会フェア
 参加者：約90人

事業の成果 ・創立10周年の区切りとして、活動を周知することができた。
 ・ネット通販でのトラブルやクレジットカードの不正使用など、消費者相談で特に増加している事例について啓発することができた。

活動現場レポート 創立10周年記念事業〈R3.3.27／山口県立図書館レクチャールーム〉

この日は、記念講演と消費者力アップセミナーが開催されました。

午前の講演では、講師の熊丸みつさんが、子育てに自信を持ってない親や孤立する親が増えており、祖母や地域の人が積極的に関わるのが大切と、一人ひとりに語りかけるように話されました。

午後のセミナーでは、県金融広報アドバイザーの中村久枝さんが終活の進め方について、石村真奈美さんがネット通販やキャッシュレスにおけるトラブル事例と対処法について説明されました。

子ども連れや高齢者まで幅広い年代の方が参加され、熱心に聴講されていました。

また、ロビーでは、個別ブースを設け、弁護士2人による無料法律相談が併せて実施されていました。



記念講演会



消費者力アップセミナー

団体名 特定非営利活動法人うべ 子ども 2 1 (宇部市)

代表者名	下郡 ひづる	団体の目的 地域の子ども文化に関する事業を行い、すべての子どもが「豊かな子ども時代」を過ごすことができる環境づくりに寄与する。
構成員数	150人	
設立	1975年(S50)年3月	
問い合わせ先	0836-21-9114 (事務局) ※月・水・金 11:00~17:00	

事業名 人形劇団ココン「トレテックパレード」

事業の目的 ・ コロナの感染拡大により生活環境が変化し大きなストレスを抱える子どもたちが、コロナ禍でも未来へ希望を持って過ごせるようにする。

事業の内容 ・ NPO法人うべ★子ども21 45周年第335回例会
 開催日：12月13日 14:00~15:00
 場所：宇部市総合福祉会館大ホール
 参加者：74人
 内容：・人形劇団ココンによる人形劇
 演目：トレテックパレード／テテの日曜日
 ・明治安田生命保険相互会社による野菜摂取充足度「ベジチェック」
 の無料測定

事業の成果 ・ コロナ禍で不安を抱える子どもたちに、心の栄養補給を行うことができた。
 ・きちんと感染症対策を行うことで、コロナ禍でも安心・安全に舞台鑑賞ができることを多くの人に理解していただくことができた。

活動現場写真 トレテックパレード (R2.12.13/宇部市総合福祉会館)

コロナ禍にあっても、子どもたちが安全で安心して舞台鑑賞ができるよう、コロナ感染症対策に助成金を活用した人形劇を開催されました。

当日は、人形の部品が取れてくっつく「トレテックパレード」や、手を使った「テテの日曜日」が上演され、ガイドラインに沿って体調確認や手指消毒、人数制限、換気などの対策が取られた会場で、子どもたちは、奇妙で美しく、おかしな人形劇の世界に引き込まれていました。

また、会場入り口では、スポンサーの明治安田生命の皆さんによる野菜摂取充足度「ベジチェック」の無料測定も行われ、充実した舞台鑑賞となっていました。



トレテックパレードの上演



野菜摂取充足度「ベジチェック」

団体名 特定非営利活動法人シニアネット光（光市）

代表者名	福森 宏昌	団体の目的
構成員数	16人	市民に対してICTの活用を促進する事業やICTを活用して社会参加活動を促進する事業を行い、地域社会の発展に寄与する。
設立	2004年(H16)年6月	
問い合わせ先	snhikari01@gmail.com（代表）	

事業名 相談会の再開に向け、コロナ感染防止のための資材や場所確保とオンライン化へのレベルアップを図るための研修会の開催

事業の目的

- ・ コロナ禍で高まっているICTの利活用の市民ニーズに対応するため、相談会やミニ講座を開催する。
- ・ 新しい生活様式に対応するため、オンライン化へのレベルアップを行う。

事業の内容

- ・ なんでも相談会、ミニ講座
開催日：10月～2月 毎週月曜・木曜 13:30～15:00
場所：光市地域づくり支援センター
内容：パソコン、タブレット、スマートフォンの使い方講座、相談対応
- ・ Zoom研修会
開催日：①12月26日 13:30～15:30 ②2月5日 13:30～15:30
場所：コワーキングスペース ヒカリバ
内容：①Zoomを利用したweb会議の参加方法を学ぶ研修
②主催者（ホスト）としてweb会議の開催方法を学ぶ研修
- ・ Zoomマニュアル（ゲスト編、ホスト編）の作成

事業の成果

- ・ 感染症対策に必要な備品を揃えたことにより、中止していた相談会を再開し、安心・安全に市民のニーズに応えることができた。
- ・ 研修会により、市民活動団体が、コロナ禍でも、オンラインを有効に活用するための理解を得ることができた。

活動現場レポート Zoom研修会〈R2.12.26/コワーキングスペース ヒカリバ〉

この日は、市民活動団体の担当者を対象に、IT技術者で株式会社ステラリンク代表の石川博之さんによるZoom研修会が開催されました。

初めに福森代表が、「新しい生活様式に対応し、オンライン化を進めるためにしっかり学んでほしい」と挨拶されました。

続いて、セミナーでは、実際にZoomを使いながら、会議に参加するための手順や便利な機能について説明がありました。大半の方がZoomを利用したことがあったようですが、初めて知る機能も多く、皆さん熱心に学ばれていました。

時間の関係で、Zoom会議を運営するための機能については説明が短くなってしまったため、2回目の開催を望む声が多数上がっていました。



丁寧な指導を受ける様子



ノートパソコンを持参して受講

「ご寄付」のお願い

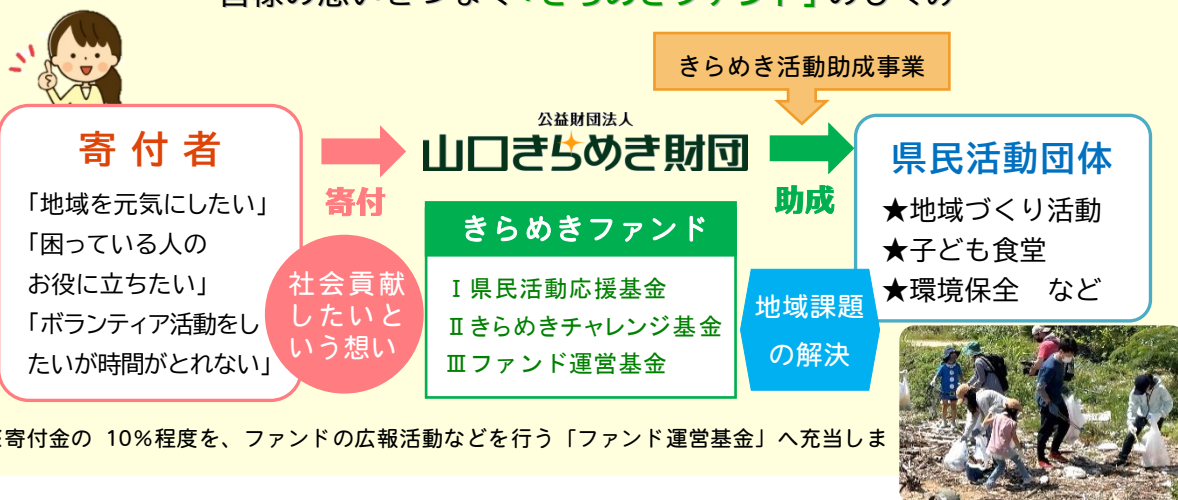
当財団では、多くの企業・県民の皆様からのご寄付により、地域づくりをはじめ、男女共同参画、文化振興など、幅広い分野の県民活動を支援しています。お寄せいただいたご厚志は、「**きらめきファンド**」に積み立て、大切に活用させていただきます。

当財団へのご寄付に、ご協力をお願いいたします。

寄付の方法

手数料無料の専用の振込用紙でお振込みいただけます
(振込用紙は当財団にご請求ください)

皆様の想いをつなぐ「きらめきファンド」のしくみ



「賛助会員」加入のお願い

当財団の取り組みを応援してくださる賛助会員を募集しています。ご協力をお願いいたします。

年会費

2,000円
(有効期間は令和5年3月31日まで)

申込

随時お受けしています

申込方法

手数料無料の専用の振込用紙で会費をお振込みいただけます(振込用紙は当財団にご請求ください)

《財団の取組》

県民活動団体の要請に応じて
研修会などへ講師を派遣



■当財団へのご寄付や賛助会費は、寄付金として税の優遇措置を受けられます
詳細は、当財団へお気軽にお問合せください (TEL 083-929-3600)



発行

令和4年（2022年）3月

公益財団法人

山口きらめき財団

YAMAGUCHI KIRAMEKI FOUNDATION

〒753-0082 山口県山口市水の上町1番7号 水の上庁舎2階
TEL.083-929-3600 FAX.083-924-9096
E-mail:info@y-kirameki.or.jp <http://www.y-kirameki.or.jp>

